

文化論集第 46 号
2015 年 3 月

消 息

渡辺洋一先生，神保尚武先生，平井裕先生， ランゲ・ヴィリー先生をお送りするにあたって

2014年度，商学部は外国語担当の神保尚武先生，平井裕先生，ランゲ・ヴィリー先生の3名をお送りすることになりました。渡辺洋一先生は，2012年度末ですすでにご退職になっています。これまで商学部の外国語科目を支えてくださった4名の先生へのお礼を込めて，商学部教員を代表して一言述べさせていただきます。

1942年10月18日に東京でお生まれになった渡辺洋一先生は，東京外国語大学英米語学科ご卒業後，東京大学大学院人文科学研究科の英語英文学専門課程に進まれました。武蔵工業大学，國學院大學での専任講師を経て，早稲田大学商学部の専任講師になられたのは1976年4月のことです。1979年4月に助教授，1987年に教授に昇任され，1990年9月から1992年9月まで西澤脩学部長のもとで教務担当教務副主任を，2002年9月から2004年9月までは辻正雄学部長のもとで学生担当教務主任をお務めになりました。

ビジネス・テクニカル・コミュニケーション研究所（早稲田大学総合研究機構のプロジェクト研究所）では2004年4月から2013年3月まで所長として研究なさいました。学外では，1984年4月から現在まで日本テクニカル・コミュニケーション協会の理事，2001年4月から現在まで日本実用英語学会の副会長を務めるなど，ご活躍になっていらっしゃると思います。

渡辺先生は，2013年3月のご定年退職後，早稲田大学名誉教授とられました。本来であれば，ご退職なさるときにこのごあいさつを書くべきところ，大変遅れましたことを心からお詫びいたします。

渡辺先生は，実用英語，テクニカル・コミュニケーションをご専門とされ，多くの論文，訳書を発表になり，多くの辞書編纂にも関わっていらっしゃいます。『リーダーズ英和辞典』『リーダーズ・プラス』といった有名な辞典にお世話になった人は多いと思

いますが、『スーパートリビア事典』や『アメリカン・ポップ・フリーズ』といった訳書は、広告論を専門とする私にとってはアメリカ文化を理解する上での必読書です。

渡辺先生は、「コーパス」といわれる言語研究用の電子テキストを活用した研究に注力され、一般の人々がよく接する雑誌類、小説、映画、広告物などを素材に、現在も毎週のように大学図書館に通って研究をなさっているということです。

私が商学部の教員になったばかりの頃、渡辺先生がアメリカのテレビコマーシャルを教材にした研究会に呼んでくださいました。海外からの講師の講演を聴き、そのあと参加者皆で会食をして楽しく語り合ったことを覚えています。また、渡辺先生は、私が本部事務局を担当している日本広告学会会員として、学会の研究会にも参加してくださいます。学生時代、先生に教えていただくチャンスがなかったのはとても残念です。私が学部生、大学院生の頃、広告研究はアメリカの広告理論と実践から学ぶところが非常に多く、渡辺先生のアメリカ文化に関わるご研究と知識をもっと吸収させていただければよかったと思います。今後も、英語と広告やマーケティングを結び付けた研究の面で、ご指導いただきたいと思います。

神保尚武先生は、1945年3月14日、群馬県にお生まれになりました。1967年3月に国際基督教大学教養学部人文科学科を卒業された先生は、同年4月に早稲田大学大学院文学研究科修士課程に進学されます。またこれと同時に商学部の語学助手に嘱任され、これが商学部におけるキャリアのスタートとなりました。修士課程を1969年4月に修了された後、間を置かず早稲田大学大学院文学研究科博士課程に進学され、この段階で語学助手から助手に、1972年には専任講師、1974年に助教授、1979年に教授と昇任されています。

先生は、語学助手の時代から数えると、48年もの間商学部で教員として過ごされたので、本年お辞めになるどの先生より長く商学部での教育を担ってくださったことになります。英語の先生方のリーダーとしての存在感は大きく、英語のカリキュラムは神保先生の強力なリーダーシップのもとにまとめられてきたことができます。

神保先生のご専門分野は英語教育学、教材開発、英米の演劇ですが、最近は中等教育英語科教員養成を研究テーマになさっているとのこと。商学部の外では、大学英語教育学会（JACET）で2005年から副会長、2010年から現在も会長をお努めになり、英

語教育において学内外でご活躍されてきました。多くの研究書，論文，教科書，辞書などを書かれています。

特筆すべきこととしては，NHK ラジオ「基礎英語」の講師（1991年～1994年），NHK テレビ「3ヶ月英会話」の講師（1998年），NHK ラジオ「リスニングテスト」の講師（1994年～2001年）をお務めになったことで，メディアを通して先生の教えを受けた人の数は知れません。

20年ほど前にご病気をされ，そのリハビリでウォーキングをよくなさるようになったと伺いました。歩くことは心身の健康により影響を与え，ゴルフやスキーなどの運動の基礎にもなるそうです。神保先生の若々しくきびきびした歩き方を見ると，ウォーキングの重要性がよくわかります。

先生のお住まいのある群馬県富岡市の富岡製糸場が，2014年6月，世界遺産に登録されたニュースはあまりにも有名です。先生のご定年の年と重なっているのにご縁を感じます。「富岡製糸場を愛する会」に所属されている先生は，富岡製糸場の英文パンフレット製作にも協力なさったとのこと。神保先生はご趣味も豊富で，「富岡・群響と第九を歌う会」にも所属され，第九に限らずさまざまな合唱曲を歌っていらっしゃるそうです。最終講義のときには，出席者全員で第九を歌うという素敵な企画があったことも記しておきたいと思います。

平井裕先生は1944年10月27日に東京にお生まれになりました。早稲田大学第一文学部文学科をご卒業後，大学院文学研究科に進学され，1970年3月に修士課程を修了されています。商学部専任講師になられたのは1976年4月ですが，その2年半前から非常勤講師としてフランス語を担当されていたので，商学部で42年にわたり教鞭を執ってこられたことになります。その後，1987年4月に助教授，1996年4月に教授に昇任されました。1996年9月からの2年間は，椿弘次学部長のもとで学生担当教務副主任をお務めになりました。

私は1974年に商学部に入學しており，第二外国語はフランス語を選択しておりましたので，タイミングとしては平井先生に教えていただく可能性はあったのですが，実際には1年生の時も2年生の時も別の先生の授業を受けることになりました。大学時代の友人に聞くと，隣のクラスは平井先生に習っていたようです。私のクラスでは2年生のと

きに *La Belle et la Bête* (美女と野獣) を教科書に勉強していました。平井先生の研究業績に『美女と野獣』の共編注があり、出版年が1975年であることを見ると、当時は意識していませんでしたが先生の教科書を使っていたようです。昔の教科書を本棚から探してみたところ、やはり平井先生のお名前がありました。間接的に世話になっていたということです。私の教科書には鉛筆でびっしりと書き込みがあり、ほぼ全ての単語を辞書で調べていた様子がわかる状況でした。

それほどフランス語に心許ない私なのですが、商学部の教員になって数年間はフランス語文献講読という科目を担当することになってしまいました。一時、ある先生の代講を急にせざるを得なくなり、ちょうどセメスター制になったばかりで週2回の授業があるところを平井先生と1回ずつ担当したことも思い出しています。当時の学生にとっては、平井先生に教わるのはいいけれど、私が担当する回は迷惑だったことでしょう。

平井先生といえばサン＝テグジュペリの研究で多くの論文を書かれていることも忘れてはなりません。小学生の頃に『星の王子様』を読んだだけで、サン＝テグジュペリについてほとんど知らない私でしたが、平井先生の美しい文章から、彼の複雑な人物像を少し理解することができました。

平井先生はほかにも、『仏和料理事典』『仏和料理用語辞典』『おいしい和仏辞典』などを記され、お料理への造詣が深いこともうかがえます。服装や眼鏡もいつもおしゃれで、さすがフランス語の先生は違うと思っていました。

ランゲ・ヴィリー先生は、1953年5月23日、ミュンヘンにお生まれになりました。ランゲ先生は、兵役代替社会奉仕役務としてミュンヘン近郊のガオティング中央病院での勤務を経験した後、1974年にミュンヘン大学に入学、ドイツ語、フランス語専攻の学生となります。1975年10月からの1年間はフランス・トゥールーズ大学に留学、1977年10月からの1年はスペイン語、スペイン文化研究のため、スペイン・グラナダ大学にも留学されました。スペインからの帰国後、再びミュンヘン大学において DAF (外国語としてのドイツ語) 主専攻、ロマンス系言語学とゲルマン言語学を副専攻とし、1987年10月には DAF 博士号を取得されました。

博士号取得後は、ジーメンス社の外国語教育部門講師、ミュンヘン大学での非常勤講師などを経験され、1988年4月に三重大学の外国人講師として日本での教歴をスタート

させます。そして、1995年に早稲田大学商学部の専任講師に嘱任され、95年に助教授、2005年に教授に昇任されました。

ランゲ先生は、ドイツ語ネイティブとして、商学部のドイツ語教育の質を高めてくださっただけでなく、日本語も含めてさまざまな言語に精通し、人の気持ちを 읽는 ことにきわめて優れた方であると、周囲のだれもが高く評価しています。風貌からは非常にきまじめな先生に見えますが、ときどき思いがけない冗談をおっしゃり、人を笑わせることもあるそうです。

ランゲ先生が日本で教職に就くきっかけとなったのは、グラナダ大学に留学されていたとき、日本から留学していた一人の女性との出会いがあったからです。その女性はちにランゲ先生の奥様とされます。残念なことに奥様は10年前にご病気でこの世を去られました。ランゲ先生が定年まで9年を残して選択定年の道を選ばれたのは、最愛の奥様を亡くされたこととも係わっています。二人のお子様も成人され、現在ドイツで生活をしていらっしゃることもあり、ランゲ先生は奥様のいない日本を離れ、スイスで新しいチャレンジをしたいと考えるようになったそうです。

日本は大好きだと言って下さっていますので、私たちに愛想が尽きたわけではないようにではとしましたが、残念であることに変わりはありません。もっともっと私たちと一緒に商学部で働いていただきたいというのが本音ですが、ランゲ先生のお気持ちを大事にしたいと思います。

渡辺洋一先生，神保尚武先生，平井裕先生，ランゲ・ヴィリー先生のご退職は、商学部にとっておおきな損失ですが、定年，あるいは選択定年というかたちでのご退職はだれにもとめることはできません。商学部ではこれまで，専門科目の教員だけでなく，外国語科目の教員，総合教育科目の教員の絶妙なバランスのもとにカリキュラムが組み立てられてきました。商学部に入學した以上，商学部らしい専門科目をしっかり勉強して身につけてもらいたい反面，一般的な常識や基礎となる外国語などをこつこつと学び，人間としての厚みをつけることの重要性も忘れてはなりません。商学部の専任教員として外国語を担当して下さった先生方が，商学部生に教えて下さったことは，外国語の知識だけではなく，人間のさまざまな生き方であると思います。

これまで先生方から商学部，早稲田大学に賜りましたご恩に心から感謝いたします。

どうぞご健康にはくれぐれもお気を付けて、お元気に、研究やご趣味に精を出されますようお祈りしております。ありがとうございました。

早稲田大学商学部長

嶋村 和恵